

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2018年												2019年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月 ~6日	10月 ~13日	10月 ~20日	10月 ~27日	11月 ~3日	11月 ~10日	11月 ~17日
カンピロバクター	37	39	48	105	75	71	122	98	160	113	109	109	56	46	78	65	87	128	102	107	157	23	21	6	12	14	11	15
病原性大腸菌	66	51	44	98	78	83	111	80	73	69	119	157	85	81	77	69	51	59	51	37	85	11	14	8	13	13	7	9
腸管出血性大腸菌	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	1	1	0	0	0
サルモネラ	3	1	1	5	3	20	12	22	13	9	5	13	5	3	11	6	3	11	5	12	18	2	2	1	4	4	3	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	11	7	24	10	10	16	26	20	17	22	19	10	9	12	13	14	24	11	17	15	3	3	0	2	2	2	4
黄色ブドウ球菌 MRSA	12	11	13	12	12	17	14	11	18	7	18	22	22	16	22	14	11	12	18	12	15	2	4	2	2	4	2	1
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	7	5	3	1	2	4	2	2	1	3	3	0	0	1	0	0	3	1	2	4	0	1	0	0	0	0	0
ロタウイルス	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	9	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	3	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	13	13	17	4	4	2	3	0	0	0	6	23	23	23	11	11	2	5	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和元年第46週(11月11日~11月17日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	11	結核	11	1	1	3	1	1	1	3
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1							1
四類	9	つつが虫病	5	2				3		
		デング熱	1				1			
		日本紅斑熱	1							1
		レジオネラ症	2					1		1
五類全数	13	アメーバ赤痢	1					1		
		ウイルス性肝炎(E型, A型除く)	1		1					
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2			1			1	
		急性弛緩性麻痺	1							1
		急性脳炎	1						1	
		クロイツフェルト・ヤコブ病	1					1		
		梅毒	4	1				2		1
百日咳	2					1			1	

注) 西部…大竹市, 廿日市市, 府中町, 海田町, 熊野町, 坂町, 安芸高田市, 安芸太田町, 北広島市, 江田島市
東部…三原市, 尾道市, 世羅町, 府中市, 神石高原町

西部東…竹原市, 東広島市, 大崎上島町
北部…三次市, 庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1. インフルエンザ

定点当たり2.03人の報告があり、前週と比べてやや増加しました。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖も1件報告されています。

インフルエンザは、流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がります。手洗いの励行、咳エチケットなどインフルエンザ対策を徹底しましょう。

2. 感染性胃腸炎

定点当たり4.75人の報告があり、前週と比べてやや増加しました。手洗いの励行、便・吐物の適切な処理など感染予防対策を徹底しましょう。

インフルエンザの流行状況



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	75	2.03	0.70	◇	小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.65	
小児科	咽頭結膜熱	4	0.17	0.35		眼科	RSウイルス感染症	17	0.71	0.63	⇒
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	1.50	2.92	◇		急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	114	4.75	11.05	◇		流行性角結膜炎	1	0.13	0.75	
	水痘	5	0.21	0.62			細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	手足口病	11	0.46	0.95			無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	伝染性紅斑	13	0.54	0.26			マイコプラズマ肺炎	3	0.43	0.26	
	突発性発しん	10	0.42	0.37			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	2	0.08	0.12			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	⇄		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	136	女性(40歳代)
4	つつが虫病	3	6	男性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・1人、男性(70歳代)・市外・1人
4	デング熱	1	5	女性(10歳代)・市外・推定感染地域: 国外
4	レジオネラ症	1	29	男性(50歳代)
5	アメーバ赤痢	1	8	男性(50歳代)
5	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	4	男性(70歳代)
5	梅毒	2	69	男性(30歳代)、女性(60歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(38.6) 鼻炎	8	男	2019/10/08	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型
その他の神経系疾患	発熱(38.0) 意識障害 熱性痙攣	3	男	2019/10/02	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス1型
その他の疾患	発熱	0	女	2019/10/05	咽頭拭い液 糞便 鼻汁 咽頭拭い液 鼻汁	コクサッキーウイルスB5型 ライウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載